

リースする必要がある、現状と同じ固定長での通信方式を採用した。ただし、MTJAPAN および医療業界全体が共通化から標準化へと動き始めたとき、新しい通信方式として XML などを検討する時期は訪れると考える。

IV 今後 — 適正で安全な治療へ

point ▶ 今後の具体的な課題は、施設間の情報共有、災害時の施設間通信などである。

Ver. 4.0 の検討内容を Ver. 3.0 と比較し表 3 に整理した。具体的には、今回のバージョンアップに盛り込む仕様を示した。Ver. 4.0 では Ver. 3.0 に比べ透析装置から透析支援システムへの送信項目は 32 項目から 60 項目へ、受信項目は 13 項目から 34 項目へと大幅に項目数が増えた⁹⁾。この結果、市販される透析支援システムと遜色のない通信共通プロトコルに生まれ変わり、適正で安全な、質の高い治療へ大きく貢献できると考える。

今回の通信共通プロトコル Ver. 4.0 へステップアップするまで 20 年余りの時間が費やされた。透析装置間の通信共通化から施設間の情報共有、さらには災害時の施設間通信など、今後の具体的な課題については MTJAPAN との話し合いを踏まえて進めていく。

表 3 Ver. 4.0 内容 (Ver. 3.0 との比較)

	Ver. 3.0 通信項目	Ver. 4.0 通信項目	おもな変更項目
〔受信データ〕 装置が支援システムから受信	13	34 既存：3 変更：10 追加：21	・ 変更 9 治療モードの追加、補液範囲変更、その他 (オンライン HDF など) ・ 追加 20 適正体重、血圧警報監視、IHDF、その他
〔送信データ〕 装置から支援システムへ送信	32	60 既存：14 変更：18 追加：28	・ 変更 18 温度・濃度などの送信データ見直し、その他 ・ 追加 24 除水などの完了報知、自己診断結果、その他

〔用語解説〕

• ユビキタス社会

コンピュータネットワークをはじめとする現状存在するネットワークに接続し、さまざまなサービス提供が受けられる社会。さらに、携帯情報端

末をはじめ、時間と場所を選ばず電車や自動車の中などでも簡単にネットワーク接続が可能なことである。また、人との接続のみならず、家庭電化製品などとの接続も可能である。